

第32回 日本緑内障学会

ランチオンセミナー6(LS-6)

主流出路を究める

日時

2021年9月11日(土)
12:30-13:30

会場

第2会場
国立京都国際会館2F Room A



座長

庄司 信行 先生
北里大学医学部 眼科学
主任教授



「主流出路」と聞いた時、先生方は何を思い浮かべるでしょうか。

房水が排出される経路、と想像される先生が多いと思います。その経路に関してMIGS(低侵襲緑内障手術)やROCK阻害薬などの登場により、研究報告や学会などで見聞きすることが多くなりました。実際に、OCT、OCTアンギオグラフィーなどの診断機器の進歩により、主流出路を視覚的に捉えることができるようになりました。また、薬剤の影響は評価できるのか、どのような影響を及ぼすのかについても興味があるところです。主流出路を究めることは、緑内障診療の重要な課題の一つだと思います。

本セミナーでは「主流出路を究める」をテーマに3人のエキスパートの先生方からお話を伺いたと思います。このセミナー後、「主流出路」と聞いてどのようなイメージが変わるか楽しみにしています。

講演
1

OCTAを用いた
主流出路の
可視化を究める

赤木 忠道 先生

新潟大学大学院医歯学総合研究科
眼科学分野 准教授



講演
2

身近になった
主流出路の
評価を究める

稲谷 大 先生

福井大学医学部 眼科学教室 教授



講演
3

主流出路に対する
手術での
薬剤の影響を究める

廣岡 一行 先生

広島大学病院 眼科 診療教授

